



2020・9・11

第 385 号

101-0065 東京都千代田区  
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

## 安倍政治の継承を断ち切る新たな構えで

### 退任表明後も改憲に執念

安倍首相は退任表明後も改憲への執念を捨てず、「新たな強力な体制の下、実現に向けて進んでいくものと確信する」と後継政権の下で改憲路線が推進されることに期待を寄せています。とくに、残されたわずかな期間内に「敵基地攻撃能力保有」に向けた談話を発表しようとしていることは断じて容認できません。

### 安倍なき後の安倍改憲許さない

#### 【宮城県／宮城県内九条の会連絡会】

「宮城県内九条の会連絡会」は5日、憲法学者の渡辺治一橋大名誉教授を招いて「コロナをのりこえ、時代をひらく」と題する講演会を仙台市内で開き、150人が参加。

連絡会の相原研一運営委員長は「9条をあらためて守っていく運動を進めよう」と呼びかけました。

渡辺氏は、病気を理由とする安倍首相の辞任表明の背景に、改憲の野望が国民の世論と運動に阻まれ、コロナ収束も見通せないことがあると指摘。「安倍政治とは何か」

#### 《安倍退任に世話人からの一言・続》

#### 高遠菜穂子(イラク人道支援ワーカー)

イラクより高遠です。

集団的自衛権容認、安保法制成立、武器輸出3原則の撤廃。

この7年8ヶ月で私が最も焦りと不安を感じたのは、海外メディアでも特に大きく報じられたこれら3つです。「平和主義から軍国主義へ」「平和主義を棄てた」といった見出しに衝撃を受けました。

でも、これだけの難局にあって、憲法九条を守り切ったことは誇っていいのではないのでしょうか。全国に広がった九条の会のみなさんの働きのおかげと思います。

この後も全く気は抜けませんが、新しい日本をデザインする気持ちで頑張りたいですね！

と問いかけ、「安倍首相の思い付きではなく、数十年にわたる米国追随の軍事大国化、大企業本位の政治を完成しようとするもの」と解明し「ポスト安倍が狙うのは改憲と新自由主義だ」と述べました。安倍首相の“継承者”による「安倍なき安倍政治、安倍

改憲」の危険を告発し、「安倍政治」に終止符を打つため、市民と野党の共闘による連合政権構想が不可欠だと力説。「衆参で改憲勢力3分の2を取られたが、改憲を阻んできた。その力を土台に、憲法の生きる政治を私たちの手でつくりたい」と語りました。

新しい政権構想をめぐり参加者から「政党任せでなく市民も力を発揮したい」などの熱心な意見や質問が出されました。

## 誰が首相でも9条改憲許さない

**【青森県／青森県九条の会】** 青森県九条の会は3日、青森市の駅前公園で、安倍首相の辞任表明後初の「安倍政治を許さない」行動を繰り広げました。35度を超える猛暑の中、17人が参加。「安倍さん辞めても安倍政治を許さない」とポスターを一斉に掲げ、リレートークしました。

マイクを握った参加者は、「自民党総裁に立候補する面々は安倍政治を引き継ぐことを表明している。引き続き安倍政治が終わらせるまで、運動を広げよう」「誰が首相でも9条改憲は許さない」と訴えました。

日本共産党のさいとうみお衆院青森一区候補は、安倍首相を追いつめたのは国民の運動だと強調。2015年に安保法制（戦争法）が強行され、青森の自衛隊員が南スーダンへ飛び立つ際、青森空港で家族が涙で見送った姿を忘れないと述べ、「国民を泣かせてきた政治を終わらせるため、みなさんと一緒にこれからもがんばります」と力を込めました。

## 野党代表が共闘への強い決意

**【香川県／9条の会かがわ・香川革新懇】**

9条の会かがわと香川革新懇は6日、安倍政治の転換を求めた宣伝行動（6の日行動）をおこないました。

県内の野党が総ぞろいしてリレートーク。立憲民主党の富野和憲県連代表、国民民主党の木村篤史県連幹事長、共産党の中谷浩一県委員長、社民党の高田良徳県連代表、新社会党の井角操県本部委員長が演説。「この7年は憲法を踏みにじり暮らしと経済を破壊した政治に、国民から激しい批判が起き、市民と野党の共闘が大きく進んだ7年でもある」「与党を倒すため、野党一致団結して香川から踏み出していこう」「自公政治にピリオドを打たないといけない」などとそれぞれ訴えました。

高松から参加した女性（77）は「誰が首相になっても、総選挙で根本を変えない」と話しました。

## 安倍政治の追及続ける決意

**【静岡県掛川市／九条の会掛川】** スタッフ会議を開き、この間の動き等について自由討議をおこないました。

・安倍首相辞任で今取り組んでいる「安倍改憲発議反対署名の“安倍”の文字は外すのか？→安倍の路線が変わったわけではない。当面は現在の署名やポスターを変える必要はない。

・菅は総理の官房長官として一体でやってきた人。安倍より手ごわい。黨員投票もない党内民主主義もない。

・国民自身が変わらなければダメ。若い人は「安倍さんのおかげで就職できた」「経済支えてくれた」などと評価している。今の中年層も30年以上こんな新自由主義の中

で生きてきている。給料はあがらず、格差は酷く…これが普通だと思い、もはや政治に期待していない。「刷り込まれている」

・でも、先日のリニアの集まりをみても、当初は20名も集まればOKのつもりが100人近く押し寄せてきた。争点がしっかり見えるようにすれば、まだまだやれる。自分で社会を変えられる、という経験をするのが大事。

なお、会議ではこれまでおこなってきた「憲法寺子屋」を「尊徳さんなら今の世の中をどうみる」(仮題)で11月29日に開くことをきめました。(九条の会掛川・坂部秀)

## 平和を願い「9の日」鐘つき

【岡山県高梁市／高梁9条の会】高梁9条の会(代表世話人 時光重孝ほか5人)は、戦争放棄を定めた、憲法9条の「9」にちなみ、9日午前9時9分から、「9条を守ろう」の決意をこめ、14寺院でいっせいに「平和の鐘つき」を行いました。

「平和の鐘つき」は、毎年同じ日時に行っているもので今回は10回目。

この日、14の各協力寺院には、会員、市民ら合わせて58人が参加し、戦争で犠牲になられた方々への黙祷をささげたあと、みんなで9つの鐘をつきあいました。

協力寺院の住職さんからは「『戦争』という言葉が世界中からなくなるように、そして今後もみなさんと一緒に平和の鐘つきができることを願っています」「私の兄も戦争の犠牲になったが無念でなりません。私たちの宗門は『不戦決議』をしています。みなさんと思いは同じです」「平和の鐘つき

は有意義なこと。これからも継続してがんばってほしい」などと語られました。また「9条を守る活動に使ってほしい」と募金を寄せられた寺院もありました。

【福岡県／九条の会福岡県連絡会】九条の会福岡県連絡会は9月9日午前9時9分に「平和の鐘」に取り組み、福岡県内の約100カ所の寺院、教会でいっせいに鐘を鳴らしました。

福岡市中央区の光円寺では会員15人が集まり、「憲法9条を世界に広げ、戦争をなくそう」と次々に鐘をつきました。

代表世話人の石村善治氏は、安倍晋三首相が辞任表明してもなお「敵基地攻撃能力」の保有に固執していると指摘。総裁選で「安倍路線の継承」が方向づけられ、今後も改憲策動が続くと危機感を示し、「戦争につながる改憲には、なんとしても反対だ」と力を込めました。

参加した福井万貴さん(83)は、空襲で防空ごうに入ることができずに川に飛び込んで命拾いした体験を振り返り、「二度と戦争のない日々が送れるよう、毎年参加している」と話しました。

## 【神奈川県川崎市／たま九条の会など】

9日9時9分、川崎市北部・登戸の長念寺の鐘が「ゴーン」と鳴り響きました(たま九条の会など地域の4つの9条の会が共催)。コロナ禍の中開催が危ぶまれましたが、マスク着用などの徹底で、「せっかく続けてきた灯を絶やすまい、鐘の音は、人々の耳と心に届くはず」と開催されました。

定時、鐘つき堂には50人超の人々が集い、

「憲法9条を守り抜くぞ」「平和な世をいつまでも」や「安倍は反省せよ」の声も出る中、それぞれの思いをマスク下の声に出しながら平和の鐘は撞き続けられました。

鐘つき後、静寂な本堂に移って長念寺小林住職のあいさつ、9条の会や東京宗教者平和の会など多方面で活躍する浄土真宗本願寺派僧侶山崎龍明師のお話を聞きました。戦時中殆どの仏教者が戦争に協力したことを厳しく批判、「人を殺してはならない」とする仏法者こそ平和な世の中つくる先頭に立たなければならないと語り、「憲法9条を守ることこそ仏の願い」と分かりやすく、ユーモアを交えながら話される山崎師の言葉に一同感銘を受け語り合いました。

今回は遠く川崎区などから駆け付けた人を含め、地元老人会会長や近隣女性など幅広い参加者があり、9条を守り平和な国をとの思いを共に深め合いました。

## 国会前行動続けると澤地さん

九条の会よびかけ人の澤地久枝さんの提唱で始まった毎月3日の「アベ政治は許さない」の国会前のスタンディングが、9月3日もおこなわれました。

体調が思わしくなく姿を見せなかった澤地さんは3ヶ月ぶりに参加し、「私は1日も欠席したくなかった。今回は来られて本当に良かった」と参加者に感謝しました。

参加者は今後も国会前行動を続けることを確認しあいました。

**寄稿・マスコミ文化九条の会所沢に入会しました**

### 小津安二郎さんへの敬慕

河合 すぐる

日本映画の中で、私は小津監督が一番好きです。「小津調」は、日本人の心を豊かにしてくれました。何といても「東京物語」です。尾道から上京した老夫婦を心から歓迎してくれたのは、戦死した次男の嫁の紀子（原節子）でした。小津さんはたしか3度も戦争に駆り出され、「戦争の悲惨さ」を支那（今の中国）でいやと言うほど体験しました。どの作品にも、平和で、のどかなことが一番との思いが映し出されています。これまで小津さんについて私は2本の雑文を書きました。「小津映画には佛壇がない」と「小津に見習い生きたい」です。

小津さんは若いころ、三重県松阪の山奥の宮前尋常小学校の代用教員をしていました。しかし、映画への思いが断ちがたく1年で東京に出てきます。その小学校の教え子が東京に奉公に出てきて、つらく苦しい生活の合間に、松竹の撮影所を訪ねました。撮影で忙しいなか、小津さんは彼をあたたく迎えたといいます。「地獄で仏」に出会い、「涙が出るほどうれしかった。懐かしい思い出」と彼が語った言葉が、6年前、「朝日」土曜発行の「Be」に載っていました。小津さんの「慈愛」に私は涙しました。彼は、どれほど「生きる」ことへの勇気をもたらしたことだろう。同じような体験をした私には痛いほどよく分かります。

私はもう86の老兵ですが、小津さんに見習い、人にやさしく、かけがえのない平和憲法を守って、生きていきたいと思います。

\*河合さんは、当会の会報「九条守って世界に平和」を読み、『美しい、充実した文章』と感銘し、7月、当会に入会されました。

（「マスコミ・文化九条の会 所沢」事務局）